

令和6年度 第1回 総合教育会議 議事録

開催日	令和6年11月14日(木)	会場
開会時刻	午前10時00分	佐渡市役所 2階 大会議室
閉会時刻	午前11時40分	
出席者		
市長 渡辺 竜五	教育委員会 教育長	香遠 正浩
	教育委員会 教育長職務代理者	加藤雄一郎
	教育委員会 委員	瀧川 紀子
	教育委員会 委員	岩崎 奈美
	教育委員会 委員	後藤まき子
説明のため出席した職員		
総務部	教育次長	鈴木 健一郎
部長 中川 宏	教育次長補佐	市橋 秀紀
	学校教育課	
	課長	渡邊 一哉
	教育総務課	
	課長	柳澤 正二
	課長補佐	若林 昭宏
傍聴人数	2人	

会議に付議した議題

- 議題 (1) スポーツ・文化関係事務の移管について
 (2) 佐渡市教育大綱及び佐渡市教育振興基本計画について

<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳澤教育総務課長 	<p>◎本総合教育会議は、午前 10 時 00 分から開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定刻になりましたので、これより令和 6 年第 1 回佐渡市総合教育会議を行います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡辺市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会にあたりまして、市長よりご挨拶申し上げます。 ・ 本当に教育行政大変お世話になっております。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な形で教育委員会と議論をさせていただき、文科省から次長が来ていただいて、今年はステップの年になったかなと考えております。 ・ 私自身は教育とライフラインの維持は、行政の基盤だろうと認識しています。特に、学校教育というのはしっかりやっていただきたいと思いき、地域を知って、地域を守っていこうという思いを持った、そういうその地域が好きになる子供たちをどのようにつくっていくかが大事なんだろうと思っています。 ・ 文化とスポーツを市長部局へ移管したいと思っておりますが、これは世界遺産登録を踏まえて、保全と活用をきちっと両立をしていきたいと思っております。 ・ もう一つは、この後いろいろ議論をさせていただきますが、教育の一本化もできないかなと考えていて、本当は文化とスポーツの移管とワンセットで考えていましたが、なかなか教育は簡単にはできませんので、しっかりともう少し議論していこうと今考えているところです。 ・ 今日の教育は少子化問題も含めて多くの問題を抱えています。ぜひ皆さま方と議論を交わしながら取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳澤教育総務課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題に移りますが、佐渡市総合教育会議運営要綱第 3 条第 2 項の規定では、会議の議長を市長が務めることとなっておりますが、本会議は市長、教育長、教育委員とが協議、調整、意見を交わす場であり、会議を円滑に進めるため、例年進行につきましては総務部長にお願いしております。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員全員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし
<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳澤教育総務課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、中川総務部長、よろしくお願いいたします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中川総務部長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総務部長の中川です。よろしくお願いいたします。 ・ 早速議題に入ります。 ・ 議題 1、スポーツ、文化関係事業の移管についてです。 ・ 教育委員会より資料が提出されておりますので、教育長から説明をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 香遠教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界文化遺産登録を契機に、文化・スポーツ・自然、そういった資源を最大限に活用していくため、これまで教育委員会で行っていた事務を市長部局に移管するという事について、その方針について、これまで教育委員会の定例会で何度も意見を交わし、資料ナンバー 1 にありますようにまとめさせていただきました。 ・ 方針については、基本的に賛同いたしますが、その際、懸念されること、あるいは配慮をしていただきたいことをまとめさせていただきました。

<p>・ 瀧川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日は、各委員から出された思いなどを改めてお聞かせをいただきたいと思います。 ・ まとまり毎に進めさせていただきます。まずは要望・意見の1と2、教育の内容に関することにつきまして委員の方々から思いや具体的なお話をさせていただきたいと思います。 ・ 私には大学4年生の息子がいますが、中学1年生からジオパークについて色々教えていただいている、糸魚川ジオパークの学友たちと話をしたりすると、佐渡は調査の段階から保全の気持ちが入っており、視点が観光目線ではなく、教育目線だということすごいいねと言われるそうです。 ・ また、息子が中学校のときには、ジオパークの全国大会に、私も引率の立場で一緒についてったのですが、やはり教育の視点が身近にあったので、子供たちが、ジオパークの大切さとか面白さや、佐渡の魅力、誇れるものを学び積み重ねることができたと思います。 ・ 大学で学び終えて帰ってくる子供たちがいますが、この佐渡の魅力を愛して、地元が好きで地元によく帰ってきたいという気持ち、やはり熱心に教えてくれた講師の先生や、ボランティアさんたちの支えがバックグラウンドとして幼い頃から見えていて、それが将来の夢につながって日本に佐渡ジオパークの良さを世界に配信したいというふうに変わったと感じています。 ・ やはり社会教育課でそういった取組を学校現場や、生涯学習の現場で年齢関係なくつなげたから、子供たちが家庭と学校だけでなく、斜めのつながりとして、その講師の先生方や地域の方たちのつながりがあって、今までの学びや経験から佐渡に残りたいという気持ちが、親から言うのではなくて自分から出てきていることは、私は、社会教育課が教育委員会の立場でいい教育をしてる結果が出始めているんだなと喜びを感じております。
<p>・ 岩崎委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この後の、内容や議論にも関わることだと思いますが、学校は現在、コミュニティースクールというものがあり、地域の方が学校にどんどん入ってきて、教育活動支援をしたり、いろんな活動の手助けをしたりと、そういった活動が盛んに行われてきている中で、やはり社会教育課の役割とか、公民館の役割というのは益々重要になってきているという現状もある中で、こういった生涯学習と観光というものがどの様に両立したら良いかというのが、これから課題になるのかなというのもあり、先ほど瀧川委員がおっしゃったことに関連しますが、そういったことを十分配慮していただければ、私は賛同できるかなと考えています。
<p>・ 後藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡市の文化・スポーツ・自然環境の保存、継承、活用させるために、やはり、専門性の高い人材配置が必要だと思います。 ・ スポーツと文化の移管に関しては、そこに伴って専門性の高い人材を配置していかなければ、なかなか進めていくのも難しいのではないかと思います。そのため、その人材を適材適所にしっかりと配置し、そうすることで、持続可能な発展を目指すことができるのではないかと思います。
<p>・ 加藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツと文化、それから観光の視点でという、世界遺産登録を機に私たち

もそこがまとまっていけるのであれば、私はいいチャンスかなというふうに捉えています。

- ・ 私は、佐渡はよくポテンシャルが高いと、島外から来た人によく言うのですが、意外と佐渡の人たちは気づいてなかったり、それぞれが別々に結びついていなかったりというのがあるのだろうというのを感じていたので、今回そういう面で、市長部局に移管することは、起爆剤ではないですが、動きがよくなることをすごく期待したいと思っています。

- ・ 併せて、観光面からいえば、どうしても観光客、島外の方に目がいきますが、先ほど市長がおっしゃったように、佐渡を好きな子供たち、そこがベースだと思うので、そういう面ではやはり教育は欠かせない。

- ・ 佐渡の子供たちが活躍できれば、一つには観光客がすぐ思い浮かぶのは、子供ガイド、いろいろなところでやっていますが、また子供も生き生きするし、子供たちの成長にもなるし、そういういろんな支援等がされて、子供も生き生き、観光客も楽しんでいけるようになったらいいなと思っています。

・ 香遠教育長

- ・ ありがとうございます。

- ・ この1番2番を一言で言うと、これまで教育委員会が行ってきている事業について、継続をしていただきたい。そして、後藤委員が言われるように人材をしっかりと配置していただきたいということであります。

- ・ 続けて3番4番に移りたいと思います。3番4番は部活動の地域移行に関することであります。

- ・ では、この3番4番について今と同じように、各委員会、どなたからでもかまいませんが、お話をお願いします。

・ 瀧川委員

- ・ まず3番の学校部活動の地域移行は、やはり他県からも注目を集めていること、内容がスポーツ面、芸能面、文化面と多岐にわたってとても優れている、ここまで作り上げてくれて本当にありがたいと思っています。

- ・ 今の佐渡は生徒数が少なく、学校によっては部活内容の選択ができずにもう取り組めないことが当たり前になっていて、子供たちは、せっかく豊かな文化も自然も優れたところにながらも、体験できずに卒業を迎えてしまうことが多いと思います。

- ・ 子供たちには佐渡から離れる前、大人になる前に自由にまず知って体験してもらいたいと思います。やはり魅力があるし、またそういった講師の先生方が本当に協力していただいて支えてくれて、今2年間出来上がってきているので、これを大事にしていきたいと思っています。

- ・ そのためにも教育委員会とスポーツ・文化担当の部署の連携と協力体制というのを、しっかりと築き上げていただき、今1人2人の生徒に対しても、講師の先生方が面白さや魅力を短くても、体験ができる状態をつくっていただいて、これは本当に子供たちにしてはありがたい。他県から見たらうらやましい事業の一つだと思いますので、その辺をよろしくお願ひしたいと思っています。

- ・ 4についても、国際交流員のS E Aの取組で保育園からスポーツとかの動きを通じて英語を取り組んでいる。

	<ul style="list-style-type: none"> 佐渡市は全国学力調査や学習状況においてなかなか数字が上がっていかないということと、小学校までは、家庭も先生方も子供に対して、見守る目が濃いですが、中学校になると部活動が始まって子供たちもちょっと勉強を後回しではないけれども、気づいた頃には追いつけないほど学力が離れてしまって、家庭の中でも子供は多感な時期なので、何とかしようというような形がなかなか言いにくい状況もあり、どうしても英語に関しては苦手意識が高かったんですよ。それを新しい初めての取組なのですが、苦手意識が出る前から英語と関われるという、しかも体を動かしながら関われる、また地域も取り組んで関われることは、すごくいい状態で始まったばかりなので、これはやはり教育委員会で、継続ができればありがたいなと思っております。
<ul style="list-style-type: none"> 岩崎委員 	<ul style="list-style-type: none"> 部活の地域移行に関して、少し飛躍した考え方かもしれないですが、学校が実際中心なので、地域とは連携していますが、そこはやはり教育委員会の管轄で、その管理というのも大切になってくると思います。それを観光と教育とを、もし連携させるということになれば、先ほど加藤委員がおっしゃったような、子供たちにその部活を通して、そういうガイドを育成したりとか、あとはいろいろなアウトドアにしても観光要素があるものを中心に、今その地域移行でやってるエンジョイ型という、いろいろな人形芝居だとか、スポーツだけではない部活に参加するということを活用して、そういった人材というのか、その生徒たちにそういったことを観光と絡めてさせるということであればうまく行くのかなと少し思ったりもしました。 スポーツ国際交流員のSEAという県内でも初の取組ということで、とても画期的で、他県からも注目されてたりしてると思うのですが、私自身、息子が野球をやっております、その際に野球というと、世界的に見ても、今大谷翔平の活躍で海外に憧れを抱き、夢を持つ子供たちもいるので、そういった海外からの指導員が実際に佐渡で、部活の現場で指導者として、身近で教えてもらってるというのはすごく刺激にもなるし、すごいなっていう憧れにもなりますので、これは今後も、学校というか教育として、これはもうずっと継続していただければと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 後藤委員 	<ul style="list-style-type: none"> 4番のスポーツ交流員SEAの活動ですが、今年度から保育園に行って運動、遊びを見てくださるということで、孫が保育園の年長でして、その日をとても楽しみにしていました。感想を聞きましたら、すごく楽しかったと言いながら、一生懸命思い出して家族に伝えようとしていて、いろいろスポーツをしながら、遊びながら教えてもらって、とても楽しい時間を過ごしたようです。 学ぶ楽しさ、面白いからやってみたいというところが、幼児期の中にそういう気持ちが生まれることは、とても良いことだと思いますし、外国の方に対しても、触れ合う機会を多くしていただいたという点でとても感謝しています。そういう意味からもやはり継続して頂きたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 加藤委員 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の地域クラブ移行について、佐渡市は本当に素晴らしい取組をしていると思います。 私も退職して4年目になりますが、私も中学校で部活をやってきましたが、

<p>・香遠教育長</p> <p>・岩崎委員</p> <p>・香遠教育長</p> <p>・瀧川委員</p> <p>・岩崎委員</p>	<p>どうしても学校の枠にずっととらわれて、地域移行なんかできるのかなと、そう思っていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ですが、今、佐渡ではエンジョイ型もプラスして、文化的なものとかも入って、今の子供たち幸せだなと感じています。そうすると、社会教育課を中心に教育委員会がやってきたこの取組は、課題も多く、克服は無理だと思っていましたが、これをこんなに佐渡は活かしているのだと、私は逆に誇らしく思っています。 ・ 今回、スポーツ・文化が移管するということですが、特に最初の仕事が当然重くなってやらないと、きっと亀裂が生じると思うので、そこは重複しながら、調整しながら進めていくことを、ぜひお願いしたいと思ひますし、特に移管した最初の1、2年はきっと問題が起きると思ひますが。迷ったときにフランクに調整ができる流れになってくれると、子供たち、保護者、それから地域の皆さんにとっていいのかなと思ひています。 ・ 部活の地域移行、佐渡市地域クラブ活動を来年度は、月3回実施することとしています。 ・ 移管後も、これまで同様に、教育委員会とも連携し一体となって進めていきたいと考えております。 ・ 次、5番、6番は、施設に関することであります。 ・ 各地域にとって街の施設は、市民が生涯教育とかスポーツ、教育活動など、多岐にわたって活用するにあたり、やはり大切な拠点ではあると私は常に思っています。 ・ 今後懸念されるのは、体育館その他施設の利用申し込み等をする際に、市民がどこに問合せでいいか困ることがないように担当部署や担当者を明示していただき、責任の所在が分かる状態であれば問題ないと感じています。 ・ 生涯学習の場としてこれまで同様、移管後も利用できるようお願いしたいということです。 ・ 最後に、7番8番、博物館、あるいは文化財に関する要望であります。 ・ 学芸員の適切な配置ですが、職場体験やキャリア学習、ジュニア学芸員講座に参加して、将来佐渡にそういった資格に魅力を感じる子が、今後ますます増えてくると思ひます。 ・ 佐渡で安心して子育てや、生活していくにあたって、家の長男だからとか、お店があるとか、いろいろ土地を持って田畑があるっていう人以外の選択肢の中でも、資格を持ってきて帰ってくる時に、こういった配置も必要ですし、またそういった育成の場も大切にしなければいけないと、私は、キャリア教育を通じて、特に感じているので、そういったことも含め、配慮をお願いしたいと思ひます。 ・ 博物館の管理運営に関しては、世界遺産登録によりさらに関心が高まって、来場者、来館者はもっと増えると思うが、その対応として、やはり学芸員の配置や育成もこれから重要になってくると思ひます。 ・ あとは観光要素が必要ではあると思ひますが、佐渡金山の歴史的背景という
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・加藤委員 	<p>のは、国内外でもいろいろと注目されてる部分でもあり、そういった部分は教育委員会に意見を聞くなどの関与が必要になってくると感じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう1点、2年前に赤坂アカ先生が手がけた博物館マスコットキャラクターがありますが、その管理を教育委員会でされていて、そういったことも、私個人としては、観光にもつなげて、うまく活用できるのかなと感じますので、そこも今後考えていただければと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・加藤委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7番8番は博物館・文化財に関わることですが、大きくは先程、1番文化・スポーツ・自然の運用で、活用と保全の往還ということで、ここが先ほど市長のおっしゃった、いかに活用・保存していくかということが、大本にあると思う。 ・ 博物館は佐渡に実はたくさんあり、旧市町村のものが文化財もいっぱいありますので、それと教育とを是非つなげていただいて、教育振興基本計画にも公民館との関係や、施策の15には「佐渡が誇る資産を活用した学習を推進」という項目がありますが、教育との視点も入れたまま、ぜひその活用と、ここでできるといいなと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・香遠教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先程、岩崎委員が言われたことに関して、例えば、博物館協議会あるいは文化財保護審議会とかに教育長は委員に入っています。今後、移管後も教育長を委員に入れていただけると良いかなと思います。 ・ ジオパーク推進協議会などもそうですが、その場で教育委員会として、意見を言わせていただけると良いと思っております。 ・ ここまで委員の皆さんからご意見いただいたのですが、何か言い残したところございませんか。
<ul style="list-style-type: none"> ・加藤委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほど、後藤委員もおっしゃってるのですが、組織が変わるときは、やはり全体像が見える人がいるかいないかで動きが違うと思います。そうしたときに、観光、文化、スポーツ、教育で、ある程度重複・シェアが分かる人が、先ほど人材確保の話がありましたが、そういった人が重宝するかもしれない。 ・ ただ人材確保も大変で、その点で、今佐渡は、またいろいろな方が頑張ってきた方がいるので、そういう中で全体が分かる方、そしてまた見えない部分はお互いに常に意見交換ができる場ができてくると、よりまとまりが出るのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・後藤委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、加藤委員がおっしゃった、この後移管した後にそういう場がまとまって出来上がったときに、専門的な知識を持った人たちがさらに力を発揮できるように、人事異動に関してもある程度キャリアを積んで、それを活かす場をつなげることができる体制が私は必要かと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・香遠教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。 ・ ここまで聞いていただいたところで、市長から、コメントをお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・渡辺市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず全体像として、スポーツと文化を移す、観光と連携するというと、観光視点でスポーツと文化をやるという認識をされることも多いですが、実は私はそんなふうには考えてないです。 ・ この仕事の壁をとるためにどうしたらいいかということです。

- ・ 意外に教育委員会はここまでですというところで終わることがたくさんありますし、それは市長部局でも同じです。やはりそこを一つの政策として今もまた先になってるわけですよ。
- ・ 文化は世界遺産と一緒に市長部局に来ていて、そして博物館は教育委員会にあって、決して今もスムーズにいつているわけではない。
- ・ 今回、1番私が行いたいのは、必要なものは教育委員会がこれまでどおりでやっていただくと。そして観光視点で動かせること、これは広い形で市長部局に持ってくると。
- ・ 一例を言いますと、例えば教育委員会で文化のイベントなどをやると、佐渡汽船と連携しないです。私が職員の時から言っていますが、これは教育委員会だけではなく市長部局でもそうです。
- ・ 私はトキ認証米をやるときに「知る・守る・使う」という三つの環境戦略をかなり早いうちにつくりました。生物多様性を国がつくった時に全国でも早いうちに、佐渡もつくったんですけど、「知る・守る・使う」、この三つを基本キーワードに考えてました。
- ・ キッズ生き物調査隊というのをトキ認証米のときにつくりました。行谷小学校の子供が中心でしたが、それでもその後、金井や相川から来てくれるようになりました。やはり「知る・守る・使う」にしても、やはり教育という部分が一つ基礎ベースにあります。
- ・ 子供たちが本当に地域を知るとのこと。守るとするのは保護につながるわけです。
- ・ これは先ほど皆さんも言われたようにこの保護という形も、知ると守ると使うはまた別の世界だと思っていて、この三つは一つの柱になって全体像がありますが、皆さんから意見があるようにこの三つはやり方が別だと思っています。
- ・ ですののでジオパークであるとか、教育のものはそのままやろうと思っております。どこのセクションがやるか、それだけの問題だと思っております。ですからスポーツも同じでそのままやります。
- ・ ただ、なぜ観光セクションと一緒にしたかという話になると、先ほど申し上げたように、全部垣根を1回取ってやれないかというところです。垣根を1回とって全てが多くのお客様に知ってもらう。これ新潟の人でも東京の人でも知ってもらわなければ、観光客にならないわけです。
- ・ そのときに、財産は何だ。財産というのはこれ佐渡のオンリーワンが財産なのです。
- ・ 自然が美しいとか食がおいしいというのは、私はオンリーワンではないと思っていて、日本全国どこにでもあります。棚田が美しいとか海が美しいということも、どこにでもあります。
- ・ オンリーワンというのは、私は文化だと思っております。ですから文化を含めて、それをいかに使っていくか。観光というのは、子供たちプラス卒業する大人、島外へ出る人、そして島外の人。この人たちを全体でどう活かしていくかということですね。

- ・ 知ってもらうこと、この情報発信をしっかり行っていくことが私は知ることだと思ってます。知らなければ守れないし、知らなければ使えない。知るということをやはりしっかりやっつけていかなければいけない。これは今、職員がはっきり言っているところでもあります。そのための組織改編であると基本的に考えています。
- ・ 皆さんご心配されてる点で、具体的に言いますと、1, 2は市長部局に移管していきたいと思っていますが、3, 4, 5, 6は基本的には教育委員会を主体にやっていただく。市長部局に持ってくるから全部こっちに行くということではなくて、職務をきちんと分けてできますので、基本的には3 4 5 6は、教育委員会を中心にやっていくということが今はベストではないかなと考えているところです。
- ・ 7, 8は当然、これをそろえていきたい。ただ、文化財というのは保全と活用、先ほど言ったように文化財は知ることがすごく大事だと思いますので、佐渡の人たちは私も含めて、佐渡の素晴らしい文化財を全然知らないと思います。私も市長になってから勉強していますが、職員時代はあまり知らなかったです。だから、そういう部分も、やはり子供たちも大人も住んでる人も思って、誇りに思ってもらうことが大事です。
- ・ あと人材の配置についてはおっしゃるとおりですが、人口も減る中で、数というよりは人件費をいかにコントロールするかというのはこの組織運営にとって非常に重要な話になります。
- ・ ですから私としては、学芸員の方々に、やはりレベルアップしていただけるような支援を中心にやって、1個1個の項目に対して学芸員を採用することは現実難しいところもありますが、これこそ活用も含めて、効果が高くなっていければ採用もできると思います。もちろん教育のために投資はやりますが、そこには一定程度限界もあるということだけはご理解頂きたいなと思ってます。ただ、大事なことだと思っています。
- ・ SEAの関係は、私も実は教育委員会から昨年提案あり、予算は全部つけるからやってほしいという話をさせていただきました。これは周りに外国の人がいるっていうのは、すごく大事ですよ。
- ・ 英語、言葉が通じないのは我々世代だけで、私の感覚では、子供と高齢者は意外に言葉が通じなくても、1時間も一緒にいると何となく通じていくんですよ。我々の世代では、言葉が通じないから話せないとか、そういう壁を張ってるから、我々大人は難しいですけど、高齢者の方は見事なぐらい仲良くなりますよね。
- ・ だから、子供はそういった壁を持っていないので、小学校の子供たちが喜んでやってるからもうこれは最高だと思いますし、できる限り、これは教育として進めていくべきだと思ってます。
- ・ 地域移行も本当に素晴らしいですね。私も教育委員会の動き素晴らしいと思ってますし、全面的に支援をしていきたいと思ってます。ちょっと不安だったのは、やはり指導者を支えてあげるかという点です。

- 子供たちに野球を教えられるときには、やってみせられるか、見せられないかが子供たちにとって非常に重要です。だからそういう部分も含めて、地域移行がやってみせられる人が、子供を教えたいという思いさえあれば、そこを支えていけば何とかできる。
- 今、いろいろな形でうまくいってますし、佐渡には多様なスポーツから文化がありますので、子供たちがそれをやりながら、そういうものがまた観光ガイドとかねそういうものにもつながってくればいいと思ってます。高校でいうと羽茂高校が英語で、アースセレブレーションの時などに、外国語で案内するとか、そのぐらい特色を持ってもいいかなあと思ってるので、ぜひこれはしっかりやりたいと思ってます。
- 公民館については、原則、このまま残していくような方向で今議論していると聞いているところです。
- 一方、拠点の在り方は、確かに大事ですが私も社会教育課長を経験しましたので、やはりその10の旧市町村があり、その中だけで考えていくと、やはりどうしても参加人数が少なくなったり、規模が小さくなったりして公民館活動として、いろいろな問題があるのではないかと思います。
- そういう点で、施設も古くなると一定程度、統合する必要もあるので、もちろん羽茂の人に両津まで行けということではありませんが、一定程度のサービス、距離感をつくりながら、そこに資本を投資しながら、効果的な公民館事業にしていくということは、一方で大事なことだと思ってます。
- サービス水準を均等に残すというよりも、そのエリアをもう1回見つめ直して、市民の皆さんの利便性が高いエリアの中でしっかりとつくっていくことも大事だと思いますので、そういうことも考えて拠点の在り方を進めていきたいと思えます。
- 教育の施設管理というのは、もう前段申したようにこれは全く変える気はありませんので、そこは我々も全部しっかりご意見頂いて取り組んでまいりたいと思っています。
- 全体として人材確保と人の育成というのは本当に悩んでいます。これをどのようにしていくか、その悩みの中で昨年から民間の方々を多く5、6人、市役所に入れたり、国とも今3人、人事交流やったりしてますし。どうしたらいいんだろうというところですね。
- これは逆に、いろいろご意見があれば、お話をさせていただきたいと思えます。人を育てるというのは、本当に簡単ではないですし、やはりなかなか均等というわけにはいかないというのも、この大きな組織の課題でもある。だからこの組織の中でどのように人を育てていくのかっていうのは、いろいろなものをみながら試行していますが、うまくいってるとは言えないので、またいろいろご指導頂きながらやっていきたいなと思っています。
- 最後に人事異動の件ですが、私自身はある程度、専門的な配置、その人の特徴を生かした配置というのも必要だと認識しておりますが、やはり長くなると大きな問題が起きるものです。過去の不祥事等をみても、やはり異動が長くて、

その人ではないと分からないという組織になってしまうと、そこで不正が起きる。そこに現金を持たせると、結構、問題です。

- ・ そういう点で、人事異動については様々な観点で考えてまいりますので、専門家を活かすというところもベースですし、専門家もたまには違う部署へ行くと、また新しい形で成長することもありますので、そういった様々な形で単純に3年だから異動とか、そんなことは全く考えておりませんが、やはり長ければいいというものでもないという、そのような認識を持って取り組んでいるところです。
- ・ もう一つだけ。教育委員会は月1回の会議があります。子供の問題とか、いじめとかいろいろな問題の議論が終わった後に、今の事務移行の状態を教育委員の皆さんも聞きたいことがあるでしょうし、意見交換できるような、状況報告ができるような場を教育委員会が終わったときに持てれば、それも月1回定例で決めてしまえばいろいろな意見交換ができると思うので、私はそのぐらいの情報交換をされた方が良いのではないかと思います。
- ・ それを月に1回の定例教育委員会で必ずやりますということと、もし何か大きな問題があれば、総合教育会議でまた議論するという。月1回だったらそのぐらいだったらルール付けしておいた方がいいと思いますので、ご検討頂ければと思います。

・ 香遠教育長

- ・ 各委員からの要望を受けて、今ほどそのような定例会に来て説明、意見交換していただけたというご回答も頂きました。ありがとうございます。
- ・ 教育委員会からお渡ししました資料1の内容につきまして、今後留意して進めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

・ 中川総務部長

- ・ 次の議題です。
- ・ 議題2、佐渡市教育大綱、佐渡市教育振興基本計画について、教育長のほうから説明をお願いしたいと思います。

・ 香遠教育長

- ・ 現在の佐渡市教育大綱と佐渡市教育振興基本計画は今年度末をもって期限を迎えるにあたり、改定について、私たち教育委員会定例会の中で意見交換をしました。
- ・ 鈴木次長から教育委員会の考えをご説明させていただきます。

・ 鈴木教育次長

- ・ 教育大綱等の現状について私から説明させていただきます。
- ・ 現状、教育大綱及び教育振興基本計画は今年度末までの計画でありますので、次期計画を策定しなければならないところですが、市の最上位計画である総合計画を踏まえて策定する必要がありますが、その総合計画と期限が合っていないという課題もあります。
- ・ そこで対応方針ですが、次期の教育振興基本計画、これは当然、現行の総合計画を引き続き踏まえつつも、社会情勢等の変化に応じて、必要な修正を行った上で、令和7年度、8年度の2年間分の計画として策定することで、令和9年度以降は総合計画と同じタイミングで更新が図れるように見直しをしてはどうかということです。
- ・ また、現行では、総合計画、教育大綱、そして教育振興基本計画ということ

<p>・香遠教育長</p> <p>・加藤委員</p> <p>・岩崎委員</p> <p>・瀧川委員</p>	<p>で、市の教育行政に関わる3種類の計画や方針が存在するということが、それぞれの関係性が市民目線からも分かりづらいということもあるのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2ページ目の下枠に示してありますが、国からは教育大綱として必要な要素を備えている場合には、これらの計画を総合計画ないし、教育振興基本計画、これら計画を教育大綱とみなすことができ、別途策定する必要はないとされています。 ・ 現在の総合計画につきましては、参考資料として審議をさせていただいていますが、教育に関する内容について目標や方針、これらが具体的に定められており、目標設定もされておりますので、教育大綱としての十分な要素は備えられていると考えられますし、総合計画と教育大綱が一体化することで、その下にある計画も含め、体系的にも分かりやすくなるのではないかと考えられます。 ・ これは教育委員会の考えであります。改めて、佐渡市教育大綱、あるいは総合計画で掲げられている内容、目標、そして、更新期間がずれているということについて、委員の皆さんから思ってもらえることを声に出していただければと思います。 ・ 今、鈴木次長がおっしゃったとおりですが、時期がずれているというのは、本当に動きにくい。当然これはそろえていって、また、必要なところは修正しながらというのでいかないと、それぞれがバラバラにならないように、進めていければいいかなと思います。 ・ 少し具体的な話になりますが、やはり2年先の時代がどう変わるかということを見通す、計画を立てるといのはなかなか難しいとは思っています。 ・ 現状をみる中で、学校現場というのは、ICT機器がそれぞれ整備されていて、児童生徒たちも、先生方も、そういったものを活かした授業がまだ十分ではないとは思っています。 ・ 佐渡市では、島外の佐渡出身の大学生とオンラインで繋げて土曜学習とか、地域未来塾とかを、この秋からもやっているのですが、これが私はすごく素晴らしい取組だなと思っていて、我が子が今中学3年生で受験の時期で、それがきっかけで参加させているのですが、実際に数学と英語の勉強を大学生と一緒にオンラインで行っていて、それが、週1回、10月から始めて今1か月過ぎたぐらいですが、これ継続して行っている中で、我が子は数学が少し苦手でしたが、大学生と一対一でオンラインのやりとりをする中で、すごくその毎週の楽しみになっているみたいです。今の子はそういった端末を使って、ネットでいろいろなやりとりすることがやはり楽しいし、その中で学習できるといって、意欲にもつながるといのもあって、それを1か月続けていった中で、やはり数学の成果も上がってきていて、これは今後もぜひ推進していただけたらなと感じています。ですので、佐渡市教育振興基本計画のキーワードはやはりICTなのかなと、私は考えております。 ・ 私もここは2年間、先ほど言われたICTの使い方とか、現状、修正が必要
--	---

	<p>な部分もありますが、短い2年間ですが、そこを足並みそろえるためには、今問題になってるいじめ、不登校問題ですとか、安心安全な学校づくりの面に対しても、状況が変わって、修正をかけていかなければいけない。先生方も生徒と向き合う時間を確保しなければならない、配慮が必要だとか、また不登校になった場合に、どういう支援を続けていかないといけないとかというそういう細かいことの計画を見直さなければいけないものの、やはり足並みをそろえるために、一部の修正を入れながら、そろえるべきだと考えております。</p>
<p>・ 後藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も同じ意見です。修正をしながら、足並みをそろえて、同時に、次の総合計画、教育振興基本計画を基に見直して策定していく方が良いのではないかと思います。
<p>・ 香遠教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更新期間がずれているので、教育大綱についてはこの総合計画に書かれている教育のところ、それを教育大綱とみなして、教育振興基本計画については、来年再来年の2年分を作成し、そしてそろえていくという教育委員会としての考えですが、このことについて市長の考えを聞かせていただきたいと思いません。
<p>・ 渡辺市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実質的に総合計画が、きちんと教育大綱を網羅しているかどうかという点が大事で、基本的には今の総合計画は網羅されてます。 ・ そうすると総合計画自体を今大幅に変更するという計画はないので、総合計画の教育の部分はそのまま2年間延びていきますということになるわけですね。 ・ そうすれば教育大綱とそのまま2年延ばすというのは、私は基本的に問題ないのだろうという認識です。 ・ その代わりこの教育の下にある佐渡市教育振興基本計画、ここをまず2年、短期的に今の課題であるとかそこを整理して修正をしていく。これから令和9年度以降になるとやはり本当に子供の数の問題であるとか、不登校の問題であるとか、これが本当に収まっていくのかどうか、よくなるのかということは、簡単には言えないと思いません。 ・ ですからこれをしっかりと議論しながら、家庭教育の部分もあると思うのですが、そういう部分を何とか対応しながら、子供たちのために何ができるかというところを考えていくというのは、すごく難しいと思えます。 ・ 一人一人の個人の人權とか、そういうものが叫ばれる中、あまりプライバシーに入っていけないというところもあるので、非常に難しいと思うのですが、難しくてもやっていかなければいけない課題ですので、この2年間は逆に良い期間になると思うので、委員にはそこをまたいろいろ議論していただいて、今の課題を整理していただきたいと思えます。 ・ 今後、本当に人口減少社会になりますので、そこに向けて教育をどのようにしていくかを議論していければいいかなと思っています。
<p>・ 香遠教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。 ・ 総合計画を教育大綱とみなすということで市長から了承をいただきました。 ・ 今後、教育委員会として、教育振興基本計画が2年分となり、それで期間が

	<p>そろいますので、2年分の計画を作成したいと考えます。その際、目下の教育課題は何なのか、そしてその解決するために、この2年間でどこに力を入れていくのかについても今後の定例会でまた意見交換しながら進めていきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少々時間があるようですので、許される時間内で、目下の教育課題等について、力を入れて取り組んでいきたいこと、お考えのことを聞かせていただきたいと思いますが、どんな内容でもいいですが、お感じのことを聞かせてください。 ・ 教育委員としての発言ではなく、一市民として話をしたいと思うのですが、佐渡市の総合計画が出たときに、素晴らしいものができたな、すごいものができたなと思いました。中が見やすさとか、形式とあって佐渡全体のものが入って、写真もたくさん入って、その中には教育の部分もあるのですが、これを作るのは大変だったろうなと思うと同時に、そういうのができたというのに、ものすごく感激した覚えがあります。 ・ 私も教育関係に関わっていて、ここにあるのは大きな全体目標なんですけど、前期が5年、後期が5年ですが、私も退職近くなってきて、世の中の流れ・変化が激しくて、この前にはコロナがあったり、いろいろありましたけど、ICT関係入ってきたりとか、部活が移行になったりとか、文科省も大きく変わってきて、大きなうねりがあって、なかなか先が読めない。二、三年の計画もできるかどうか分からないみたいな。今、世の中の変化が激しいので、やりながら修正することも、この変化が激しい時代は必要だろうと感じています。 ・ そうしたときに、前期の計画が令和8年で終わるので、また次の5年がつながっていくと思って、そのときに長期計画も確かに必要なんだけど、PDCAという流れからしたときに、そのPは10年間のPだけやっていたのでその途中も当然、大事になってくるので、その細かい途中、先ほど移行したときの進行状況を教育委員会でも報告があって意見をすることが提案され、すごく良いことだなと思って聞いたんです。総合教育計画もとても素晴らしいのですが、やはり途中の中で状況が変われば、世界遺産であっても世界遺産登録がされたわけなので、大元はあるが、その状況が変わったことによる修正はぜひ入れて、もちろん目標や数値は、10年後にその目標一つ達成できるのかと言われると、もうその中にいろいろなものがあるのもう達成できれば次の目標にしないではいけないわけです。 ・ その辺を、柔軟にできたらいいなと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 加藤委員 ・ 渡辺市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この計画を作ったあと、計画をどう実践するか。それを考えてほしいという話をずっとしています。大きな方針ができるその下に計画つくります。大きな計画をつくって、中の計画、小の計画つくっているうちに1年が終わります。でも計画をつくるのが目的ではない。 ・ これがあつたら、これを達成するために何が必要で、それを予算事業でやりましょうと。計画をつくりながら、急ぐものは並行して動いてくださいと言っています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画をつくるのが目的になる、何かをやるのが目的になる。ですから、PとDしか動かないというのはよくあります。 ・ 公務員は実際、PとDだけでCとAはほとんど動かない。 ・ 1年で事業が終わりますが、事業が終わると、PとDをやった翌年またすぐPとDをやらなければいけない。 ・ 変な話ですが、Pを12月中から始めて4月からDをやるのですが、4月にはDはできないです、大体。Dは5月～7月ぐらい。Dをやり始めてるうちにもう9月から来年度予算が始まるので、またPなるのです。だからいつCをやるのかという話ですね。 ・ やはりこれが実は単年度予算の限界でもあり、そこをもう少し変えていこうというのは以前から言ってます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩崎委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的な話になりますが、世界遺産登録があつて、私も少し勉強したいという思いがあつて、何週間か前に、佐渡博物館に行ったのですが、中に入ったときに、正直少し暗く、受付の方ももう少しトーン明るくしたらいいなと思った。 ・ 佐渡博物館を観光要素として考えるのであれば、もう少し整備していただいて、中も明るく、せつかくこの博物館マスコットキャラクターという赤坂アカ先生のつくったものもありますので、十分活かして、もっと来館者が増えるような取組をぜひお願いしたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡辺市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まさしく、我々のお客様は誰か。やはり私達のお客様が誰で、お客様に満足してもらおうという意識があればそうはならない。 ・ こういうところをみんなで佐渡市の職員がみんなで考えていけば、今の話は変わってくると思います。 ・ ただ、博物館の展示をどうしていくかは、これは専門家の話でもあるので、専門家の中でしっかりと議論をしていきたいと思います。 ・ 大きな点は二つだと思います。 ・ やはり職員の意識の問題がまず一つだなと。あとは情報発信されて知るといふこれをどう伝えていくのか、そういうところがまずは目先の多くの課題の中で頑張っている職員もいますし、挨拶もいいとお褒めいただける職員もいますし、そうではない人もいます。全体的なレベルを上げていくということになると思います。ありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 香遠教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。 ・ まだまだ意見交換したいところではありますが、時間ですので、議題についてはここまでとさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中川総務部長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。 ・ これで予定した議題は全て終了いたしました。 ・ 最後、閉会にあたりまして市長から挨拶をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡辺市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなお話を聞きながら、私自身も教育委員会でやるべきことは、しっかりと行っていただきたいと思ひますし、市長部局でうまくそれを調整しながら、守っていくこともやっていきたいと思ひています。いずれにしても、ずっと議論して進めていくということが非常に大事です。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 教育委員会の皆様とも、また何かあれば、いつでも意見交換をしながら前に進めていくということをまたお願い申し上げます・ 本日はありがとうございます。 午前 11 時 40 分終了 |
|--|--|